

阪神支部第59回定期大会

団結で組織拡大と運動の継続・発展へ

勇気！創造！飛躍！
阪神支部第59回定期大会
2022年10月1日(土) 大阪港湾労働者福祉センター



2022. 11. 1
NO. 661号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
06-6574-8424
078-303-0800
全港湾は一人
でも入れます

10月1日、大阪港湾労働者福祉センターにて阪神支部第59回定期大会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症第7派により爆発的に感染者が増加したため、今年も1日開催とし、参加者全員に抗原検査を実施し陰性であることを確認してから始めました。

来賓には中央から松永書記長、関西地本から畠山委員長、樋口書記長が参加されました。

全港湾の

果たす役割



開会の挨拶に立った松本副委員長は新型コロナウイルス感染症が世界経済に悪影響をもたらした事、その最中に起きたロシアによるウクライナ侵略についてふれ、「ロシアへの経済制裁はエネルギー不足の要因となり、燃料高騰や小麦粉の不足などから物価上昇となった」と話し、また港湾

に於いては「中国の輸出増や欧米各国の消費増加で世界的に輸送量が増加した。しかし、世界的なコンテナ不足やコロナ禍で荷役作業が停滞したことにより海上運賃が跳ね上がり国内の海運大手3社は過去最高の利益を出した」とした一方、「トラック産業は燃料価格の上昇や高速道路料金の値上げにより売り上げは上がり、さらに悪化する見込みとの報道もある。このような時こそ全港湾の果たす役割は大きい」と話し、活発な議論による運動方針の確立を呼び掛けました。

議長団には全日検神戸分会の河本英博氏と新富運送分会の下田進一氏が選出され以降の議事が進められました。

議事運営・資格審査報告がされ、代議員総数78名中、出席39名と委任状17名(欠席22名)、執行部23名の参加で大会が成立していることが確認されました。

安全安心で魅力

ある港湾の構築



河野委員長の挨拶では感染力の強い第7派により3年連続で縮小開催を余儀な

くされたことにもふれ、「定期大会は1年間の総括や活動方針を確立する重要な場であるが、本来の2日間開催で組合員の交流の場としても大切な場である」とし、それが行っていない現状に憂慮している旨を話しました。

また、世界情勢について「ロシアとウクライナの戦争でロシアがウクライナの4州を勝手かつ強制的に併合を決めた。多くの子供や女性を含む民間人を犠牲にし、核兵器使用をちらつかせて脅すロシアは断じて許せない」と語気を強め、戦争による世界経済の混乱や物価上昇に円安が追い打ちとなっていることに「集団交渉や突き上げ交渉で取った春闘や一時金の上昇分も吹き飛ばす状況にある」と話しました。

国内の情勢については「新自由主義やアベノミクスは大失策であった」とし、「岸田政権は悪政を引き継ぎ、聞く力は聞くのみで行動で示さず、国民の声を無視した国葬の強行は民主主義をないがしろにし、海外から多数の人を招き人の密集を作る行為もコロナ禍に於けるこれまでの考えからかけ離れている」と断じました。さらに「国葬に16億円以上と言われる多額の費用を使うよりも労働者、国民に支援をするべき

だ」と訴えました。

また、野党共闘をぶち壊した連合会長、オリンピックを大企業が儲ける手段に使われた事、防衛予算を増やすのではなく中小企業への支援に回すべき等を話され、港湾春闘については「22春闘も未解決」であることや指定事業体問題について話したのち、「安全安心で魅力ある港湾の構築するため活発な議論で運動方針を確立させる」ことを求めました。

組合員の声を賃上げに結び付ける



来賓挨拶で松永中央書記長は「具体的な行動や取り組みがコロナ禍で出来ていない事もある」とし、未解決である22春闘の経過について話され、「適正料金を求める施策を政府に働きかける」「邦船3社(ONE)が史上空前の利益を上げていく中で下払いが上がつていない。確保するための検証を継続し、大幅賃金増を目指す」と22春闘の決着に向けた説明をされました。

田港の能代運輸への対応や経過報告がされ、RTGの協定不履行、清水港の事前協議、石炭火力廃止による荷役の問題等についても詳細を説明し、特に日興サービスマン分会については「司法は残念ながら終結したが、日検を追い込み協議の場にしたせる運動は継続する」としました。

23春闘については「22春闘は出遅れがあったが、全国港湾にも働きかけ組合員の声を賃上げに結び付ける取り組みを行う」と締めくくりました。

祝電メッセージが紹介されたのち、久保田書記長から第1号議案「21年度主なたたかいの経過と総括(案)」及び22年度運動方針(案)が提案されました。海外や国内の情勢、経過と方針等を議案書に沿って説明しました。コロナ感染拡大で春闘一時金総括会議が中止となったこともあり、中身の厚い提案となりました。

続けて廣渡財政委員より「21年度決算報告」がされ、玉盛会計監査の報告があり、「22年度予算(案)」が提案されました。その後、久保田書記長から第3号議案「秋から年末にかけての闘争方針(案)」として秋年末の闘争の進めた方についての説明がありました。(2P)

「歩み」

午後に入り、名古屋支部の西脇書記長と日興サービスクラス分会の上條分会長から日検との裁判の経過と結果及び報告集会についての報告がされました。西脇書記長は日検と全日検を比較して、いかに日検がひどい状態にあるのかを説明しました。上條分会長は今後の運動について行政への追及や全国闘争として指定事業体をなくし、全国港湾の21春闘覚書を履行させる事などについて熱く語り、「労働運動は勝つまでやっていく」と宣言しました。

続いて質疑討論に入り、1・3号議案について3分会から質疑があり、執行部からの答弁を行いました。

国民が一緒になつてくれる運動を

総括答弁で河野委員長は全国港湾定期大会での大港労協事務局長の三宅さんの発言から「国民と一緒になつてくれる運動をやつていかなければならない」を印象的な言葉であると紹介し、「ヨーロッパでは市民や一労働者として参加集する大規模なデモが行われている。日本も国葬反対のデモがあったように、そのようになっていかなければならない」とし、「幅広い運動が必要である」としました。

その後、特別決議が採択

され、役員の変更が行われました。それぞれ満場一致で採択されました。

退任の挨拶では松本執行委員、谷口副委員長と中山副委員長からの挨拶がありました。

新執行部を代表して河野委員長の挨拶の後、議長が大会スローガン(案)を讀み上げ採択され、大会宣言

（案）の提案と採択がされました。

閉会の挨拶で井ノ元副委員長は「これから1年のたたかう方針が決められた。民主主義により皆さんで決めた方針であり、皆さんで実行していかねければならない」と話し、最後に河野委員長の団結ガンバローで終了しました。

（案）の提案と採択がされました。

閉会の挨拶で井ノ元副委員長は「これから1年のたたかう方針が決められた。民主主義により皆さんで決めた方針であり、皆さんで実行していかねければならない」と話し、最後に河野委員長の団結ガンバローで終了しました。

（案）の提案と採択がされました。

閉会の挨拶で井ノ元副委員長は「これから1年のたたかう方針が決められた。民主主義により皆さんで決めた方針であり、皆さんで実行していかねければならない」と話し、最後に河野委員長の団結ガンバローで終了しました。

（案）の提案と採択がされました。

閉会の挨拶で井ノ元副委員長は「これから1年のたたかう方針が決められた。民主主義により皆さんで決めた方針であり、皆さんで実行していかねければならない」と話し、最後に河野委員長の団結ガンバローで終了しました。

大会発言

DICTの並びの際、実入りと返VANの列が交差し、詰まるがよくある。どちらの並びも時間によつて増減があるので何とか解決できないか。

公成運輸分会
上山 憲幸

ば、欠席している分会も参加出来たのではないかと。更に、コロナだけではなく、災害時等にも使えると思うし、組織強化にもつながると思うので再考していただきたい。

もし、SNSを使える人がいないのであればIT部会等の創設も考えていいのではないかと。

後藤回漕店分会
先野 圭介

期間が短かったのですが、労働組合の大切さを勉強させていただきありがとうございます。また、2年後には全国青

2009年第45回支部定期大会で執行委員に選任されて13年務めてきました。全日検神戸分会が阪神支部に加盟したのは2005年で、足掛け17年になります。阪神支部に加盟してこの間、実に多くの要求が前進しました。そしてなんと

2009年3月7日の要求提出から6月28日まで「115日闘争」という大きな全国闘争が取り組まれましたが、その壁は倒せませんでした。

あと私が組合員である期間は2年間です。残された期間、精一杯分会若手組合幹部の育成に専念することを表明して、退任のあいさつとします。長い間ありがとうございました。

全日検神戸分会
谷口 利之

退任挨拶

る場だと思っており、阪神支部は若い人材が少なくなっている。その少ない人材を如何に育てていくかに阪神支部の将来がかかっている。青年部の活動を盛り上げて、活動の輪を広げ、組織拡大にも取り組まなければならぬ。そのためにも青年層がいる分会から青年部へ人材を送り出して頂き、支部としても青年部へ参加しやすくなる仕組みづくりが必要とす。

また、2年後には全国青

年対策交流会議の関西での開催が内定しており、それまでに人数を増やし、団結しなければ乗り越えられない。各分会にて持ち帰り、検討していただくようお願いいたします。

菱倉運輸分会
篠崎 謙悟

ところが阪神支部に加盟して13年目、徹夜カットが導入されてから実に約半世紀が経過した2018年春闘でこの大きな壁も取っ払うことができました。毎春闘時に0・5時間ずつカットを縮小し、再来年の春には完全に廃止されることまでできました。

これもひとえに阪神支部の力添えがあったからだと言っています。

支部執行委員になり、専門部では教宣部に永らく身を置き勉強させてもらいました。また、これまでに5・6の職種の違う分会を担当するなかで、付帯要求の前進を勝ち取ったり、組織拡大を行ったりと自分の出身分会以上の感動も味わせてもらいました。

自分が働く職種と違う事業者との交渉は非常に難しくもあり、要求を前進させるためにどのように交渉に臨もうかといういろいろと事前調査も行い、たいへん勉強になりました。

私たちがなぜ、検数労連を脱退し全港湾へ加盟したのか。それは検数労連から「裁判は辞める」との圧力があつたからです。信じられないかもしれませんが事実です。私も当時の検数労連中央執行委員に直接言われたことがあります。

何の因果かわかりませんが時は流れて、いま日興サ



上山 憲幸



先野 圭介



篠崎 謙悟



松本 一輝



谷口 利之

退任挨拶

今年の9月7日で72歳になりました。その日は全港湾中央の大会1日目でした。私の誕生日は全港湾の大会と重なりますので家で誕生日を迎えるというのはほとんどありませんでした。

私が神崎運輸分会を作ったのは1982年です。様々ないきさつがありましたが、職場の差別が酷かったので作り直しました。そして阪神支部に加盟し、たたかいました。1990年の大会で阪神支部の執行委員になり、関西地本の執行委員にもなりました。

多くの運動にかかわりました。私が入ったころは各分会の創設者ばかりでした。しんどい反面楽しい闘争が多かったです。また、入ったときはもつと組合員数も多く、大会でも論争が多く、理論的に考えて話しあうことが多くありました。また、トラック部会も昔は各地方でやったりしていました。その中でも阪神支部の海コンでの運動は飛び抜けていました。渋滞にならばすぐにターミナルに文句を言いに行ったりしていました。

かないと働く職場の問題は解決していきませんのでしっかりと運動をしてください。

また、阪神支部のスローガンに安条条約放棄は絶対に入れないといけません。皆さんは馴染みがないでしょうが、これは諸悪の根源です。変えていくためにも少しずつ運動を進めていただきたいと思います。

新任挨拶

今期より支部執行委員になりました、全日検神戸分会の河本です。分会では分会長の役割に就いており、春闘や一時金交渉、また組合員や職場の社員が悩みを抱えている場合は会社に事務折衝などを申し入れ、問題解決に向け日々取り組んでいます。

阪神支部は加盟分会、人数がとても多く、自分自身が執行委員としてやっているか非常に不安も大きいですが、今まで諸先輩方に教わってきた経験や知識を最大限に発揮し、少しでも戦力になれるよう今まで以上に勉強していきます。

最後にありますが、執行委員とはいえ皆さんと向かう方向は同じです。労働組合は執行委員だけでなく、組合員ひとりひとりの団結が必要になります。共に頑

これからも皆さんが団結して阪神支部が組織拡大できるようにお願いして退任のあいさつとします。ありがとうございました。書記局 中山 寛治郎



張りましょう。

執行委員 河本 英博



今期、大洋運輸分会から阪神支部執行委員へ就任する事になりました土谷です。支部の活動に携わり、いろいろな知見を増やしていきたいと思えます。

初めてのため、至らぬ点もあるかと存じますが、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

執行委員 土谷 修一



全国港湾第15回定期大会

全国港湾50年の歴史

先人の思いと現在の労働者の思いを受け止め魅力ある港湾を目指す

全国港湾は9月28～29日に、ロイヤルホール横浜（横浜市中区）において、第15回定期大会が開催されました。

オミクロン株の感染防止の観点から執行部・代議員とともに、大会開催地となる横浜に入る前にPCR検査を実施し、皆が「陰性」であることの確認を徹底しました。

全国的地区港湾・単組代議員が現地に集まるとの開催も3年ぶりとなることから、通常の開催時以上に緊張感のある大会となりました。

大会では、21年度経過報告、22年度方針、22秋闘方針の提案がされましたが、

現状でも指定事業体問題や名古屋港でのRTGの協定不履行、そして横須賀のフエリー問題や老朽化石炭火力発電所の削減政策による雇用問題など問題山積状態にあります。

そして全国港湾の要求として「22年度産別最低賃金を184,200円（日額8,010円、時間給1,145円）とすること。」

145円）とすること。」



所信表明する真島委員長

ついでには体制的合理化の反対の姿勢を強化し、「業域と職域」の確保で「安全・安心な港をつくり仲間と家族を守る」として、22年度の全体的方針の確立がされました。

また、本大会では執行部の役員改選が行われ、一期の任期を務められた柏木委員長が退任され、全港湾出身の真島執行委員長が就任されました。

真島執行委員長の所信表明では「日本の港湾労働の発展のため、全力を尽くす。まずは、賃金の引き上げ。各単組の賃上げ闘争をバックアップし、全力でたかう」また、「産別最賃も含め、日本のどの港でも働いていても、統一的な労働条件の下で、港湾労働者が守られる体制を引き続き拡充する」と熱く訴え、さらなる団結力の向上に繋がりました。

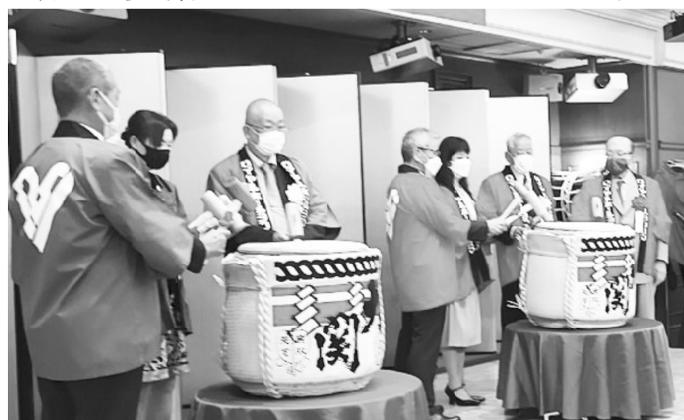
また、歴代の執行委員長や国内外の労働組合からも、祝福のメッセージが沢山寄せられ、色々な運動の経過や思い出話を聞くことが出来ました。

全国港湾の50年の歴史にふれ、港湾産別運動を常に強化すること。先人の運動家の思いと今ある労働者（仲間）の思いを受け止め、「魅力ある港湾」を目指す、これからの次世代に引き継ぐ責任と重要性を噛み締める定期大会と記念祝賀会となりました。

書記長 久保田 稔

50周年レセプション

大会終了後には、全国港湾が1972年11月に発足してから、歴史経過の中で「全国港湾労働組合協議会」から「全国港湾労働組合連合会」と連合体組織に移行しましたが、発足から



50周年を祝して鏡開き

半世紀を迎え「結成50周年記念祝賀会」が盛大に開催されました。

50周年にあたり友誼組合、政党、行政、業界、関係団体、マスコミ関係を含め、約300人が集まりました。

また、歴代の執行委員長や国内外の労働組合からも、祝福のメッセージが沢山寄せられ、色々な運動の経過や思い出話を聞くことが出来ました。

全国港湾の50年の歴史にふれ、港湾産別運動を常に強化すること。先人の運動家の思いと今ある労働者（仲間）の思いを受け止め、「魅力ある港湾」を目指す、これからの次世代に引き継ぐ責任と重要性を噛み締める定期大会と記念祝賀会となりました。

書記長 久保田 稔

安心・安全な神戸港を 確立しよう

神戸港湾労働組合協議会第45回定期大会
10月11日、神戸ホテルフ
ルートツフラワーに於いて、
神戸港湾労働組合協議会第
45回定期大会が開催されま
した。

冒頭に吉岡議長が挨拶さ
れ「近年、日本各地で発生
している重大な自然災害を
鑑みても、その影響を受け
る港湾において、厳重な安全
対策が必要であり、コロナ

対策も含めて港湾局及び港
運協会とも協議して安心安
全な神戸港を確立すべく運
動を強化する」と述べまし
た。

来賓には全国港湾から竹
内委員長代行、玉田書記
長、糸谷顧問、港運同盟か
らは梶谷委員長が来られ、
各々連帯の挨拶をされまし
た。



挨拶する吉岡議長

糸谷顧問からは
「昨今の中央団交の
混乱は、ひとえに日
本港運協会及び会長
の不誠実な姿勢に尽
きる、労働集約型産
業である業界におい
て、あまりにも労働
者、労働組合を軽視
している」と怒りを
もって述べ、「会長
店社のお膝元である
神戸港湾の奮闘と協
力をお願いする」と

求めました。
玉田書記長からは、産別
の料金問題について「賃
金、労働条件を担保する料
金を荷主、船社に要求し、
とりわけ空前の利益を上げ
ている船社に引き続き強く
求めていく」、「国際情勢
による物流の影響による一
方的な合理化を許さない」
等の方針を述べ、その他、
以前より問題提起されてい
たインランドデポについて
も、「業種、職域として一
歩踏み込んだ協議が必要で
ある」との見解を示しまし
た。また安全問題について
も「各地方、各職場からの
協力が不可欠である」と
し、神戸港湾にも協力を求
めました。

の港湾局関係において、労
働組合を敵視する旨の発言
をする議員が数名いる。現
段階ではあくまで外郭団体
であるが、いずれ我々神戸
港湾にも波及する事が危惧
される」との発言がありま
した。
答弁では竹内委員長代行
から「関連職種の問題は様
々な問題があり困難ではあ
るが、原資を担保できる料
金の獲得要求を引き続き最
大限努力する事を約束す
る」と述べ、玉田書記長か
らは「労働組合のみならず
市民団体等、現政権に反す
る団体に対しても執拗に攻
撃する姿勢は中央本部とし
ても、大いに危惧してい
る、引き続き注視していく
ので、神戸港湾も調査と情
報提供をお願いしたい」と
述べ、総括答弁では吉岡議
長から、神戸港湾50周年記
念式典への協力のお願い
と、引き続き神戸港湾への
結果を呼びかけました。
副委員長 井ノ元 宏樹

カマヤん 似て非なり ありむら潜



神戸港湾労働組合協議会
10月13日にメリケンパー
クオリエンタルホテルに於
いて神戸港湾労働組合協議
会結成50周年記念祝賀会が
開催されました。

神戸港湾の組合員のみな
らずOB、他労組、行政、
港湾関係業界、マスコミな
どの多数の方々の参加があ
りました。
主催者挨拶で吉岡議長は
「神戸港湾が結成された1
970年代の日本は高度成
長経済期の終焉、インフ
レ、オイルショックなど先
行きが不透明の状況下にあ
った。そのような情勢の中、
港はひとつ、心はひとつ

閉会にあたり松本副議長
は「歴史の重さを再確認す
るとともに、現在はずべてに
於いて大変なスピードで変
化と発展が進んでいる。変
化に対応しつつ運動、活動
を継続していくことが安全
・安心の魅力ある産業につ
ながっていくと確信してい
る」と挨拶され散会しまし
た。
私も20年近く神戸港で働
いていますが現在の労働環
境があるのは当たり前では
なく、港で働いていた、現
在も働いている先輩たちの
運動があったことを忘れて
はなりません。
次の世代に歴史を継承で
きるよう仕事も運動も継続
しなくてはならないと感じ
させられた50周年記念祝賀
会でした。
執行委員 坪井 雄志

分かるかな？ 懸賞クイズ

【問題】

ある百貨店には、日本語を覚えてばかりの外国人店員さんがいました。
彼によると【待つ】は洋服売り場、
【座る】は食器売り場、
【引く】は文房具売り場だと言う。
では【探す】は何売り場でしょう。

660の回答
A. 「アルミの使用量節約のため」

【解説】 改良前は約5.5gだった缶が改良後は4gに減りました。結果として毎年、1,200トンもの節約になりました。

3名の方から応募があり、全員が正解でした。
以下の方にQUOカードを進呈します。
田原 宏・西野太基・堀古知司 (ジャパンEXP分会)
661号の締め切り日は、11月21日(月)です。
ふるってご応募ください。